

1 検討の背景と目指すべき姿

① 新たな交通需要への対応

【背景】

新幹線延伸を見据えた札幌駅周辺の再開発や、新幹線東改札口の整備に伴い、新たな交通需要が発生することが見込まれており、この対応が必要になっている。

【今後の方向性】

- 利便性や回遊性の高い公共交通の実現**
- 多様な移動ニーズに対応する交通サービス
 - 輸送力の高さや人への優しさといった路面電車のメリットの承継
 - まちづくりとの連携による相乗効果の発揮



【図1 都心部周辺の開発状況】

② 水素社会の実現に向けた始動

【背景】

水素ステーションの整備やGX金融・資産運用特区の指定など水素利活用の環境が整いつつある中、モビリティにおける水素利活用の促進が期待されている。

【今後の方向性】

- 環境負荷の少ない公共交通の実現**
- 水素利活用を牽引する象徴的なプロジェクトの実行



【図2 水素ステーションの完成イメージ】

③ まちのブランド力の向上

【背景】

産業振興の観点からインバウンド誘致や企業立地の取組が進められている中、域外からの人や投資の誘引に資するまちの魅力向上が求められている。

【今後の方向性】

- デザイン性の高い公共交通の実現**
- まちのイメージに合う象徴的な車両の導入
 - まちの魅力を高める統一的なデザイン検討



【図3 訪日外国人旅行者数の推移】

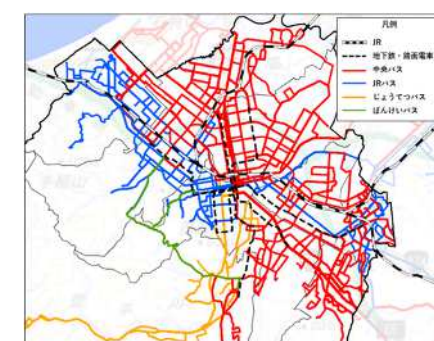
④ 持続可能な公共交通ネットワークの構築

【背景】

運転手不足による路線バスの減便や廃止の進行が加速し、既存の公共交通ネットワークの維持が困難となっている中、その対策が課題となっている。

【今後の方向性】

- 他地域への展開可能な公共交通の実現**
- 新たな知見や技術の活用による持続可能な公共交通ネットワーク構築への寄与



【図4 札幌市のバスネットワーク】

新たな公共交通システムの構築

～ まちづくり政策と交通政策の融合 ～

「誰でも、手軽に、どこにでも行ける 魅力と賑わいあふれるまち」

主な検討対象地域：創成川以東地域



【図5 目指すまちの姿のイメージ】

【新たな公共交通システムの特徴】

- 利便性や回遊性を高める
- 異なる交通モードの一体的運行**

路線定期運行

【連節車両】



- ・結節点間等の高い移動需要に対応

✕ 最適な組合せ

区域運行

【中型車両】



【小型車両】



- ・AIデマンド交通による多様な移動ニーズへの対応

- ・移動の脱炭素化に資する

水素燃料電池車両の導入

- ・洗練されたデザインで魅力的な空間を創出する**トータルデザインの実施**



【図6 新たな公共交通のイメージ】

年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
工程	社会実験に向けた検討・調整		● 社会実験 (無積雪期) ● (積雪期)		本格運行決定、車両導入・施設整備 等			本格運行
	本格運行に向けた検討・調整（車両開発、運行システム、運営体制 等）							